

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成 29 年 2 月)

### ～プレミアムフライデーへの言及はほとんどみられず～

- 景気ウォッチャー調査・2月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月連続で低下、先行き判断は3か月ぶりの上昇となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、バレンタイン商戦は概ね好調に推移したものの、消費者の節約志向は依然として強く、月全体としては厳しさの残る結果となった。気温は今月も概ね低めとなったが、冬物を購入する時期は過ぎつつあるほか、春物の販売にも悪影響が出る形となっている。なお、インバウンド関連については、前月に続いて概ね堅調な動きがみられた。
- 今月からスタートしたプレミアムフライデーについては、ほとんど言及がなく、『現在のところ、プレミアムフライデーは期待していたほどの効果がなく、旅行需要の押し上げには至らなかった。(以下省略)』という1件のみであった。
- 一方、先行きについては、米国の新大統領就任による悪影響への不安は多少和らいだものの、引き続き世界情勢の不透明感は強く、先行きの予測が立たないといった声は依然として残っている。
- なお、プレミアムフライデーに関しては、定着に向けた期待も一部にみられるものの、効果は限定的などといった悲観的な声为上回っている。

#### 「米国の新大統領および米国経済」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	やや良くなる	百貨店(マネージャー)	・前年4月の中国の関税引上げによる、旅行者の高級時計の消費不振が、この4月には一巡する。米国の新大統領の動向や、北朝鮮問題などの国際情勢には不安要素が多く、先行きは不透明であるが、今の株価や為替の状況であれば、春先の消費は前年の反動増で回復することが予想される。
	変わらない	百貨店(宣伝担当)	・底堅さはみられるものの、米国経済の先行き不透明感が続くなかで、消費者の財布のひもは、今以上には緩まない。
		百貨店(販促担当)	・株価は決して低くないが、米国経済への不安などにより、消費マインドが押し下げられている。景気動向が判断しにくい状況で、消費者の慎重さが払拭される要素は見当たらない。売り方や見せ方の、より一層の工夫が必要となる。
		百貨店(売場マネージャー)	・対米関係など、依然として不透明な状況ではあるが、今のところは小康状態で、客の動きも落ち着いているように感じる。このまま株高、円安傾向が続くことを期待している。
		百貨店(商品担当)	・米国の大統領の交代による悪影響が払拭されつつあった矢先に、北朝鮮の要人暗殺による不安要因が発生したため、先行きが不透明となっている。
		百貨店(営業企画)	・米国経済の好調は期待先行であり、先行きは不透明である。また、個人消費が停滞している。
		百貨店(マネージャー)	・米国を中心とした海外の不安要素もあるが、国内経済を支える消費喚起策がなく、大きな改善は見込めない。今後は春の賃上げ交渉の行方が顧客心理に影響するほか、消費者を取り巻く厳しい環境や、価値観の多様化により、選択消費の傾向が続く。
		スーパー(店長)	・米国が自国優先であることに変わりはないが、現時点での日本への影響は、自動車関連が中心であり、小売に関しては影響が少ない。どちらかといえば、インバウンドの動きによる影響の方が大きい。

家計動向関連	変わらない	コンビニ（広告担当）	・世界経済は、米国や欧州をはじめとしてまだまだ不安定なため、それほど好転するとは思えない。それに伴い、国内経済の好転も予想できない。
		都市型ホテル（支配人）	・相変わらず米国経済の様子見が続くため、今後も景気に変化はみられない。
	やや悪くなる	百貨店（販売推進担当）	・米国の新大統領や、北朝鮮の要人暗殺などの不安要素は依然として多く、消費意欲の低下につながる恐れが大いにある。なお、2月の終盤から、単価、来客数共に、若干の悪化傾向がみられる。
		スーパー（管理担当）	・商品ごとの価格は安定傾向にあるが、米国の情勢の様子見するような、不透明な経済状態が続くと思われる。春闘の結果次第では、更に落ち込むことが予想される。
		乗用車販売店（営業担当）	・決算が終了して通常の販売状態に戻るほか、米国の新大統領就任による影響で、官製春闘の4年目の議論では、先行きの不透明感が取り沙汰されている。今後に関する悲観的な情報を見聞きする状況では、好転する要素はない。
な悪くなる	その他専門店〔宝石〕（経営者）	・株価の変動のほか、米国、欧州、中国の動向に注意が必要で、予測がつかない。	
	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・米国の新大統領就任以降、何が起きるか分からないため、ますます用心深くなっている。	
企業動向関連	くやなる良	経営コンサルタント	・米国の新大統領による政策が不透明ななか、働き方改革や人材教育に動きはあるものの、それを取り巻く経済状況や、予算の動向などは流動的である。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・求人数においては、2～3か月先の景気を占うような明確な動きは感じられない。ただし、一時的であるにせよ、円高が進んでいるほか、米国では新大統領とマスコミの対立が目立ち、主要閣僚の辞任などで人事も固まっていない。今後は、日本経済にややネガティブに作用する可能性があり、上向くとは考えにくい状況にある。

### 「プレミアムフライデー」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	やなる良	旅行代理店（役員）	・プレミアムフライデーの浸透や福利厚生の見直しのほか、就職活動も売手市場のため、旅行需要は増えると予想される。
	変わらない	スーパー（経営者）	・好決算の発表は続くが、円高圧力や輸出関連株、金融関連株の乱高下など、海外情勢に大きな影響を受ける要素が山積みで、先が見通せない。今後は原料価格の上昇による加工食品の値上げや、当局の指導によるアルコール飲料の値上げも続くため、客の財布のひもが固くなることはあっても、緩む要素は少ない。需要を生み出すため、プレミアムフライデーなどの各種催事による掘り起こしが重要となる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・周辺に購買意欲の上がるような要素は見当たらない。また、今月はプレミアムフライデーがスタートしたが、ドラッグストアには関係がない。
		一般レストラン（経理担当）	・特に変化する要素が見当たらない。プレミアムフライデーの導入に対しては、特に期待感が薄い。
企業動向関連	変わらない	旅行代理店（営業担当）	・プレミアムフライデーにも期待したいが、なかなか需要の増加につながる手ごたえがない。
		広告代理店（企画担当）	・消費税増税は延期されたものの、関西は特に明るいニュースもなく、消費を喚起させる要素がない。プレミアムフライデーもまだ参加する企業が少なく、影響は小さい。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 15											16												17	
		月 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
現 状 判 断	近畿	52.6	50.4	51.7	51.8	53.2	51.5	51.9	51.7	53.1	49.8	49.9	48.3	45.4	40.3	41.1	42.1	40.0	46.0	45.6	44.7	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1
	(全国)	49.5	49.0	50.5	51.6	51.0	50.3	50.2	48.8	50.7	49.3	49.0	47.6	44.1	42.0	40.6	41.7	41.2	43.8	46.0	46.3	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6
先 行 き 判 断	近畿	54.1	54.8	55.2	53.7	54.0	53.7	49.0	50.2	51.1	48.9	48.8	47.2	47.0	46.1	46.2	46.7	41.1	47.0	48.4	49.4	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6
	(全国)	51.8	52.2	52.1	52.4	52.4	51.7	49.5	50.1	50.7	50.5	50.0	49.1	46.4	45.7	43.7	45.4	40.5	46.9	48.6	49.4	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6